



久々利城跡ジオラマ(株式会社パロマ寄贈)

## 元久々利ってなあに

### ～歴史～

元久々利の発展の礎となったのは美濃の守護・土岐氏の一族である久々利氏が当地に久々利城を築き、居を構えたことによります。

江戸時代に入ると久々利城は使われなくなりましたが、幕府の旗本で尾張徳川家の重臣となった千村家が屋敷を構えました。元久々利のまち並みはここから広がっていったと思われ、当時の面影を残しながら今に至っています。

### ～場所～

江戸時代から続く久々利村、酒井村、我田村、平柴村、原見村、佐渡村、丸山村、大平、大萱が明治8年頃に(明治22年には柿下村も)合併してできたのが久々利村であり、現在の久々利地区になります。そして、その合併前の久々利村が元久々利と呼ばれるおおむねの範囲にあたります。

住所の大字や小字などで明確に分かれているわけではありませんが、地元の人たちは「元久々利」という呼び名と共に地域を大切に守り後世へつないできました。



ここは城下町の面影を残す「元久々利」の一面です。「心地良い暮らしと歴史・文化が感じられるまち 元久々利」をテーマに地域住民が中心となって進めるまちづくり、元久々利まちづくり委員会の活動を紹介します。

岡 都市計画課

# 残したい景観がある

元久々利のまちづくり

## 私たちの活動がつくる元久々利

活動内容を検討する会合や地元説明会、他市への視察、地域イベントの運営などを重ね、平成24年に市で最初の景観形成重点地区として指定を受けました。これをきっかけに翌25年に準備委員会の活動を継承した「元久々利まちづくり委員会」を立ち上げました。

それ以後はまち並みの保全活動に限らず、竹あかりアート、久々利八幡神社大祭の前夜祭、夏休み工作体験などのイベントや、山城に関連した講座など、数多くの活動を行ってきました。また、平成27年度には内部組織として「久々利城跡城守隊」を立ち上げ、城跡の景観の維持・管理を行っています。



### 元久々利景観形成重点地区周辺の航空写真



写真:国土地理院提供

## 歴史的なまち並みを残したい

平成3年にまちづくりのルール(久々利区域街づくり協定)を地元住民同士で決めました。城下町の面影を残しながら、歴史的な特性を生かすことで、ゆとりと潤いのあるまち並みの維持・形成に努めました。協定は平成13年まで運用し、以後は住民同士の良識の中でまち並みの保存に取り組みましたが、近隣地区でマンション建設や山林開発が進むなど、元久々利のまち並みを守るための課題が出てきました。

## こころの景観

そんな中、可児市景観計画を策定するにあたって、元久々利地区を「景観形成重点地区」の候補地にしたいと提案がありました。住民の意識によって生活をより豊かに彩る「こころの景観」に重きを置く市の計画が、我々が後世に残したい元久々利の景観と重なるため、平成21年に「元久々利まちづくり準備委員会」を立ち上げました。

古き良き景観を残そうと、元久々利の住民同士で話し合ってルールを決めたり、行動したりと、今もなお成長を続ける元久々利まちづくり委員会。今までどんな経緯をたどり、どのような取り組みをしてきたのか、お話を伺いました。



おくら かつひこ  
委員長 奥村 勝彦さん

昭和18年に生まれてから75年余りずっと元久々利で育ち、暮らし、元久々利の子どもたちから「カッチャマン」と呼ばれ愛されているおじいちゃん。平成29年度から3代目の委員長として元気に活動しています。

まちづくりのキーマンに聞く

## これからの元久々利が目指すもの

元久々利まちづくり委員会は、古き良き景色を後世に残すことを根底に、地域を盛り上げるさまざまな活動に取り組んでいます。結果として、この地へ訪れてくれる人が増えるのであれば、このうえない喜びです。

今年の11月9、10日には全国山城サミットが可児市で行われます。可児に残る城下町の面影を残すまち並みや、山城の魅力を多くの人に感じてもらうよう、そして地域の宝、誇りとなるようこれからも活動を続けていきます。



久々利のまちを灯す竹あかり